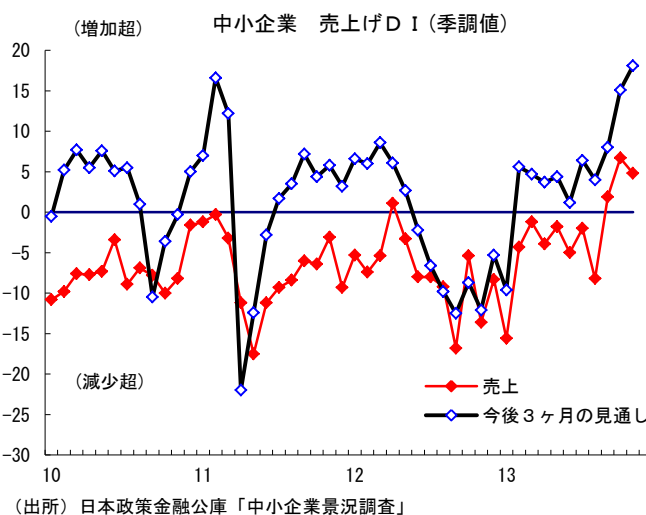
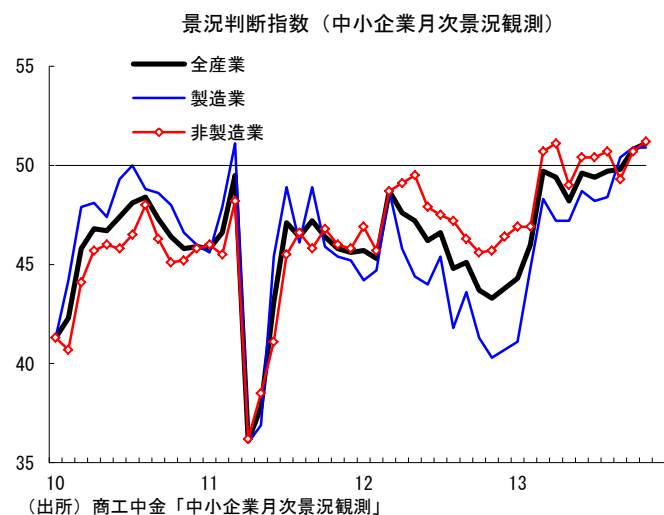


指標名：中小企業の業況(2013年11月)

発表日2013年11月28日(木)

～景況感は50超が続く。非製造業は過去最高水準に～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 エコノミスト 高橋 大輝  
TEL : 03-5221-4524



## ○景況感は50超が続く。非製造業は過去最高水準に

商工中金から公表された11月の「中小企業月次景況観測」(調査時点：11月上旬)の景況判断指数(1000社調査)は、全産業で51.1(10月：50.8)と前月から+0.3ptの上昇となった。これで4ヶ月連続の上昇となり、景況感の好転悪化の判断基準となる50も2ヶ月連続で越えている。中小企業の景況感は良好だ。

業種別にみると、製造業は前月から横ばいとなった。改善となったのは電気機械(前月差+4.0pt)や金属製品(同+2.0pt)など、悪化となったのは輸送用機械(同▲3.0pt)や化学(同▲2.0pt)などである。9業種中3業種が改善、4業種が悪化、2業種が横ばいと内容はまちまちだ。もともと、全体的に水準は高く、製造業の景況感は引き続き良好だと判断できよう。非製造業は51.2(前月差+0.5pt)と上昇した。これは、公表されている2000年6月以降の1000社ベースの調査で最高水準である。消費税率引き上げに伴う住宅の駆け込み需要がピークアウトしたとみられる建設は悪化傾向に転じているものの、小売が持ち直しに向かうなど、非製造業全体としての基調は上向きだ。なお、12月予測では製造業、非製造業ともに悪化が予想されているものの、現在の景況感の水準が高いことや消費税率引き上げ前の駆け込み需要を控えていることを踏まえると、悲観的に捉える必要はないだろう。

また、日本政策金融公庫から公表された「中小企業景況調査」(調査時点：11月中旬)の売上げD I(季節調整値)は+4.8(10月：+6.7)と低下した。3ヶ月ぶりに悪化とはなったものの高い水準を維持しており、良好な結果といえよう。需要分野別にみると、衣生活関連、家電関連、乗用車関連などが悪化した。もともと、家電関連は前月の大幅改善の後には、悪化幅が小さい。また、日本政策金融公庫によると、自動車関連は今後駆け込み需要や新型車の発売が控えていることから、今月の悪化は一時的なものとみているとのことだ。3ヶ月後の見通しではほとんどの業種が大幅改善を見込んでいる。中小企業の売上は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要などを背景に高水準での推移が期待できよう。

## ○賃上げ圧力が徐々に生じる可能性も

足元では、政府が賃上げを要請し、一部の大企業がそれに応える動きをみせるなど賃上げ機運が高まっている。ここでは、中小企業における賃上げの可能性を業況判断から読み取りたい。まずは賃上げの前提となる企業収益について中小企業月次景況観測（商工中金）をみると、企業収益に関わる採算状況（13年1月：▲11.8→11月：▲3.2）、資金繰り（同▲3.9→▲0.8）はどちらも13年始めごろから改善傾向での推移を続けている。次に雇用の過不足状況を見てみると、13年6月からは不足超幅が明確に拡大している。雇用の逼迫が続けば賃金には上昇圧力がかかる。中小企業景況調査（日本政策金融公庫）をみても、利益額D Iや従業員判断D Iが改善傾向で推移していることが確認できる。総じてみれば、業況判断からは、中小企業にも賃上げの動きが生じる可能性が示唆される。

